



今年最後の観察会です。歩き始めて後ろを振り向いて、いつものように空を見上げたら、幻日が現れていました。今日のような高い空に箒で掃いたような巻層雲が出ている日、朝方や夕方に見られます。これは幸先良し、と思って歩いたのですが、タカ類は見かけませんでした。代わりにカラ類の大きな群に2回遭遇しました。風がほとんどなく、朝の冷たさが緩む頃、上着を一枚脱いだ方が良い気温になりました。

八重クチナシ実



クチナシ実



6月から7月頃、芳香のある花を咲かせます。実が熟しても割れないので口無しというのが由来。実に色素のカロチノイドが含まれ、古くから黄色の染料として使われてきました。栗きんとんなどの和菓子やたくあんなどの着色に使われています。

幻日：大気光学現象の一種

太陽の横に明るく光るスポットできる現象で、今回は右側でした。左や左右両方にできることもあります。できるのは太陽高度が低い時間帯で、高いそらの巻層雲を作る氷晶（プリズムとして働く）に太陽光が屈折してできる白色あるいは虹色のスポットです。暈（うん、かき）またはハロと呼ばれ太陽や月の周りにできる光の環も同じような現象です。巻層雲が出ていたら気をつけようと思います。



ムネアカアワフキの巣

ソメイヨシノの枝先に付いていました。よく見ると穴が開いています。ムネアカアワフキの幼虫がこの中で樹液を吸って暮らし、石灰質を分泌し巻き貝のような巣を作ったのです。



←成虫体長4mmくらい

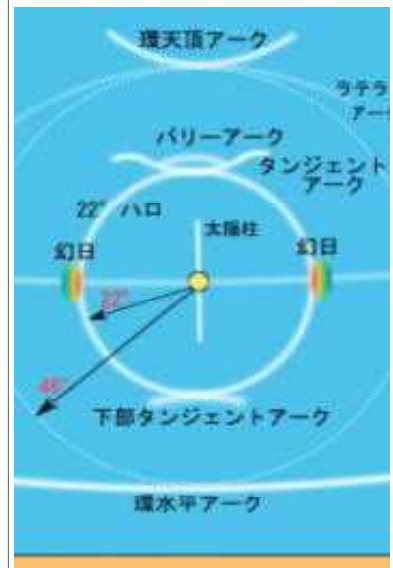


シロカネイソウロウグモの卵のう

大きさは3ミリくらいで、丸い壺をひっくり返したような形です。ジョロウグモの巣で、何



匹も見つかることがあります。体長は2mmくらいで、光を反射すると銀色に見えます。



オオモミジの紅葉



タカノツメの黄葉



コナラの黄葉



↑コナラの葉をよく見ると黄色だったり茶色だったり、赤かったりします。今年の雑木林の紅葉はとてもきれいです。

モズの早にえ枝と一緒に色をしています。長い尻尾なのでカナヘビです。



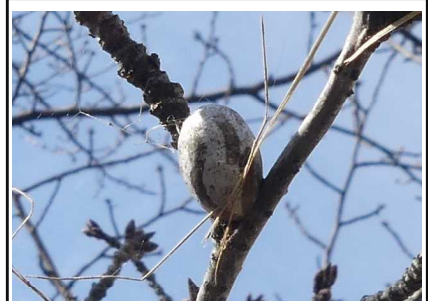
ソウシチョウ (相思鳥)

カラの混群に混じって地面に下りました。関東以西で、ウグイスと同じような環境で繁殖します。特定外来生物に指定されています。



キアシフンバエ

体長 12 ミリ。糞近くのティッシュにいました。幼虫は糞を食べます。糞をかたづけてくれるなんてすごい虫です。成虫は肉食性。



イラガの繭 終齢幼虫で上

のような繭を作り、蛹になるのは春先だそうです。なぜすぐに蛹化しないのでしょうか？繭はカルシウムとタンパク質でできとても硬いです。



冬芽 (裸芽)  
ムラサキシキブ

**植物** セイヨウタンポポ花・実、ノコンギク、キダチコンギク、コセンダングサ、ヒヨドリバナ実、イヌホオズキ花・実、メマツヨイグサのロゼット他、春に備える草(ミドリハコベ、スイバなど)、ヨシ、ヌカキビ、メリケンカルカヤ、コウテイダリア、シキザクラ、冬芽(ソメイヨシノ、イロハカエデ、イソノキ、ムラサキシキブ、ヤマハゼ)、ブナ科どんぐり(コナラ、アベマキ、アラカシ、ウバメガシ)、実(チジミザサ、アレチヌスビトハギ、イノコズチ、ヒヨドリバナ、タカサゴユリ、アオツズラフジ、ヤマノイモ、カラスウリ、クチナシ、ヤエクチナシ、ウメモドキ、トウネズミモチ、シロダモ、ムラサキシキブ、スイカズラ)、**昆虫** キタキチョウ、イラガ繭、ホソヒラタアブ、ハエの一種、キアシフンバエ、ユスリカの一種、コオロギ類、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、コバネイナゴ、ムネアカアワフキの巣、**クモ** ジョロウグモ雌雄、アシナガグモの一種、シロカネイソウロウグモ卵のう、**鳥** ツグミ声、スズメ、ヒヨドリ声、ウグイス地鳴き、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ声、エナガ、ソウシチョウ、カワウ営巣、オオパン、ダイサギ編隊飛行、ホシハジロ小さな群れ、キンクロハジロ小さな群れ、カンムリカイツブリ大きな群れ、モズの早にえ(カナヘビ)、**その他** イスノキの虫こぶ(イスノハタマフシ、イスノエダナガタマフシ、イスノエダチャイロオオタマフシ、イスノキエダイボフクロフシ?)

次回は、1月14日(木) 午前9時30分、水資源機構P前集合、参加費100円